

30年代 旧東北帝大留学の詩人・金起林

# 平和求める思想 日韓関係の灯に



## 仙台でシンポ

日韓関係が悪化している今こそ市民交流を進めようと、1930年代に東北帝大（現東北大）に留学した韓国のモダンリズム詩人、金起林について学ぶシンポジウムが仙台市青葉区のエル・ソーラ仙台であった。

仙台市の市民団体「金起林記念会」が11月30日に開催し、約80人が参加した。

記念会の共同代表で東京都の翻訳家青柳純一さん(70)は「彼の残した言葉を受け止め、今日を日韓の市民交流を拡大させる出発点としよう」と呼び掛けた。

金起林をテーマに日韓の市民交流について語り合った座談会

## 客観性 魅力 / 市民交流拡大の出発点

金は08年に生まれ、韓国が日本統治下にあった36、39年に東北帝大で英文学を学んだ。新聞社勤務や教員を経て、平和を求める詩や評論を発表した。

朝鮮戦争中の50年に北朝鮮に拉致され消息不明となったときされる。韓国では当初、北朝鮮に自ら行ったと見なされ作品が発禁処分となったが、88年に解禁され全集が刊行された。昨年、東北大片平キャンパスに記念詩碑が建てられている。

シンポジウムでは、卒業論文で金を取り上げる東北学院大4年井戸川慶子さん(21)が金が留学中に書いた詩「仙台」に関する考察を発表。「ジャーナリスト経験のある金の詩は冷静で客観的に書かれている点が魅力だ。日韓両国の人々も一方的な見方に陥らずに交流すればいい」と語った。

ソウル大日本研究所教授南基正さん、東北学院大准教授松谷基和さん、東北大准教授佐野正人さんによる座談会もあった。

参加した宮城野区の主婦長尾雅子さん(65)は「普段から韓国人の友人とは『政治はどうあれ、私たちは仲良くしよう』と話している。金起林は初めて知り、詩に興味を湧いた」と話した。